

野の仏

福田夢

一七九

追分や泉のほとりの一樹の下に
 秋風を聴き時雨に濡れ雪に埋れて
 春遠からじと合掌し落花を浴び
 蟬しぐれを迎え傾くは傾くままに
 欠けたるは欠けたるままの姿で

じっと静止している石の仏

年月も文字もなく風化するまま往還の去来

盛衰の人の世を見守っている

野の仏には虚飾なき人間の願望や

慈愛の情がこめられている

社会の変転現象を越え去誠の象徴のように懐しい